

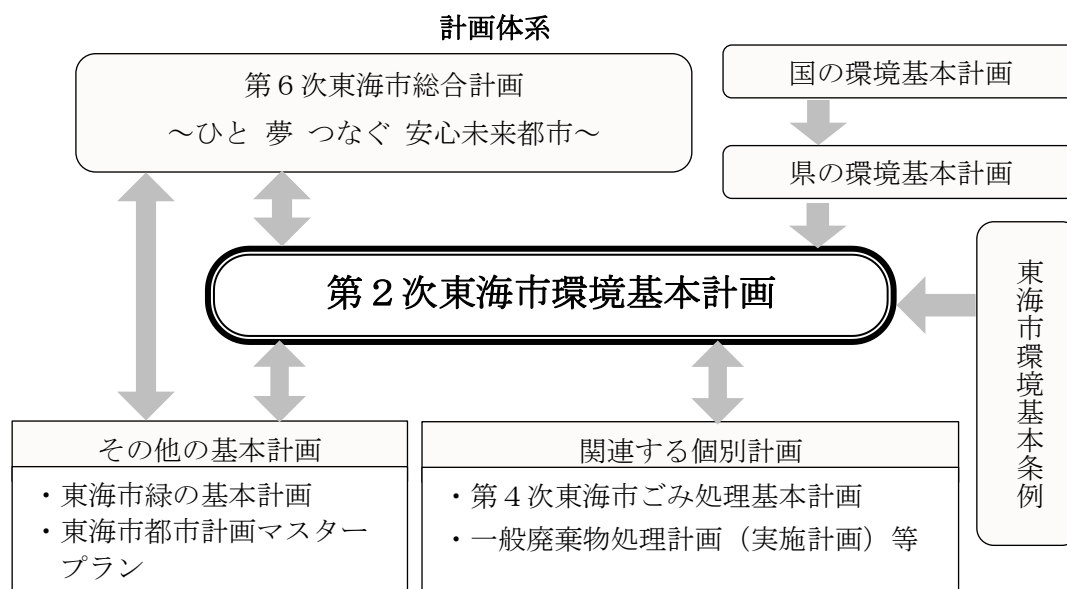
参考資料

1. 環境基本計画の体系

(1).計画策定の趣旨

本市では、平成17年に「東海市環境基本条例」を制定し、この条例に基づいて、平成19年度に「東海市環境基本計画」を策定しました。これまで本計画のビジョンである「未来につなぐ 美しいふるさと東海」を実現するため、市民、事業者、地域・団体、行政が協働してさまざまな環境施策を推進してきました。

このようななか、「東海市環境基本計画」の終期を迎えるに当たり、本市を取り巻く課題や社会環境の変化に対応するとともに、環境行政の適切な運用に役立てるため、この「第2次東海市環境基本計画」を策定します。



(2).計画の期間

上位計画である第6次東海市総合計画の施策や指標との整合性のとれた計画とするため、平成29年度から平成36年度までの8年間を計画期間とします。



(3).計画の推進主体

本計画の推進主体は、市民、事業者、地域・団体、行政です。それぞれの立場でそれぞれの役割を担い、相互に連携を図りながら、積極的に行動することが必要です。

(4).計画のビジョン

第2次東海市環境基本計画の期間内の平成31年度には、東海市が生まれて半世紀という節目の年を迎えます。この間、私たちは地域開発の進行や高度経済成長での環境悪化を経験しており、近年は、地球規模で進む温暖化や、生物多様性に対する環境問題への関心が高まっています。

市内では、公園や緑地の整備による美しいまちづくりや、下水道整備による河川等の浄化、気軽に健康づくりのできる環境の提供をはじめするなど、市民生活を取り巻く環境の改善に向けた取り組みを行ってきました。

そこで、第2次東海市環境基本計画では、これまでの方向性をより確かなものとするため、東海市環境基本計画のビジョンである「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の将来都市像を継承することとし、環境に配慮したまちづくりと持続可能な循環型社会の実現を目指して、美しいふるさとの東海市を未来に届けていくこととします。

<ビジョン>

未来につなぐ 美しいふるさと東海

快適な市民生活の再生と創造が進み、多くのひとが環境に配慮した行動を行うことや、身近な場所での生き物とのふれあいを通じて感動が生まれています。

そして、さまざまな世代のひとが健康に暮らしている「美しいふるさと東海市」に愛着を持ち、子どもたちがふるさとに誇りを持って生活している未来へとつなげています。

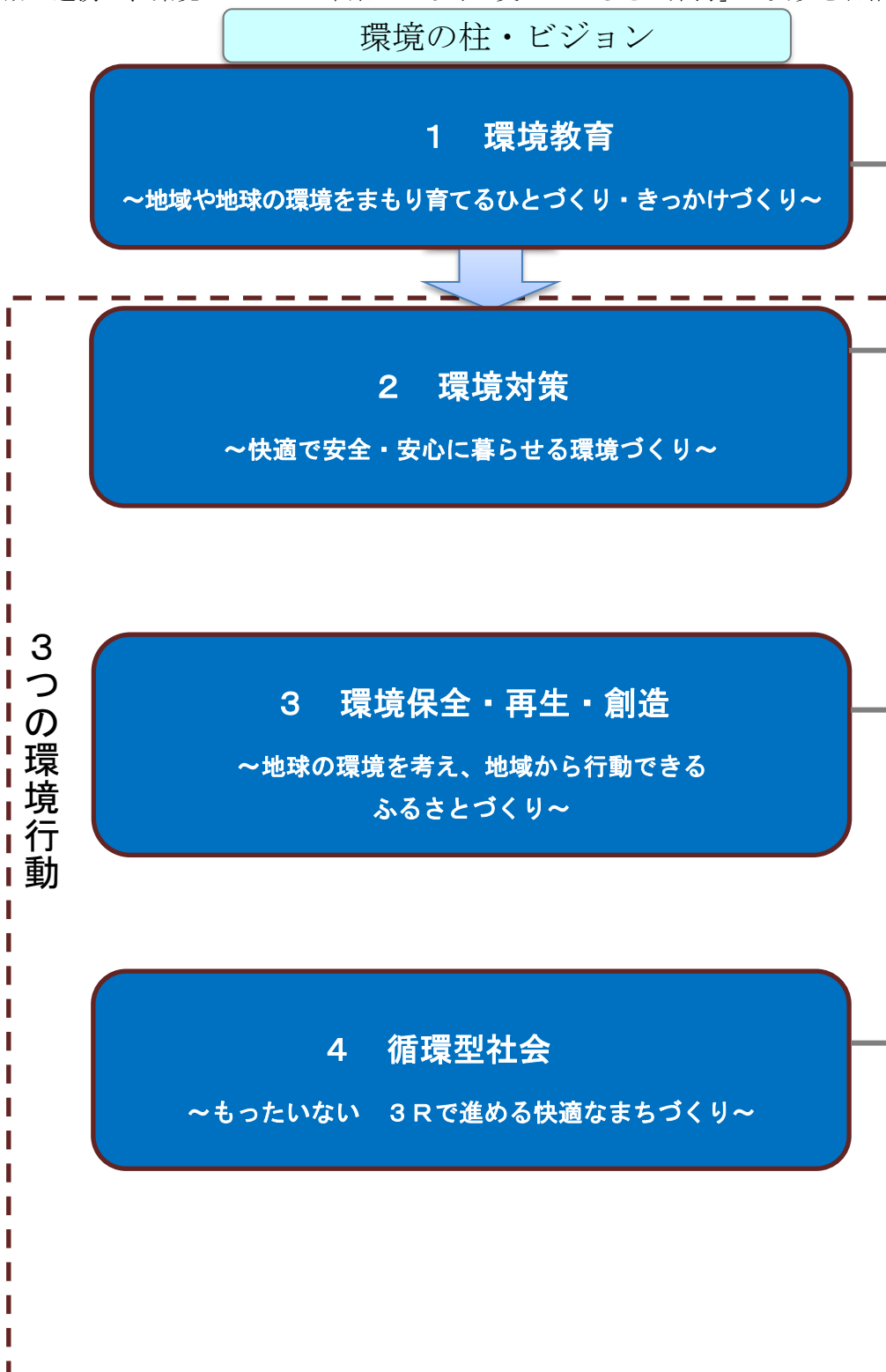
<めざすふるさとの姿>

- 多くの市民が環境にやさしい行動をしています。
- 空気がきれいで、快適に暮らしています。
- 地球温暖化に関心を持つ人が増え、温室効果ガスの排出抑制に努めています。
- 緑（公園・緑地）や水（河川・池）がつながり、生物が身近に生息し、人と自然が共生しています。
- 「もったいない」意識が高まり食品ロスなどが少なく、ごみの分別が徹底され、資源が循環しています。

2. 環境の柱ごとの基本的な施策

1. 体系図

「環境教育」と、「環境対策」、「環境保全・再生・創造」、「循環型社会」の3つの環境行動が連携し、環境ビジョン「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の実現を目指します。



環境分野・基本的な施策

行動計画

★環境教育

環境教育を推進する

環境教育・学習の推進

環境保全活動の担い手づくり

★大気・ばいじん

きれいな空気を守る

大気の調査・監視

公害の防止

★悪臭・騒音

悪臭・騒音の発生を抑える

悪臭対策

騒音対策

★水質

生活排水を適切に管理する

水質の調査・監視

水質環境の改善

★地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

省エネルギーの推進

再生可能エネルギーの活用

低炭素型まちづくり

★環境美化

まちの環境美化を推進する

美化活動の推進

★緑・水・生き物

人と自然が共生できるように環境保全活動を推進する

緑地の保全・持続可能な利用

水環境・水循環の保全・持続可能な利用

生物多様性の保全・持続可能な利用

★3R活動

ごみ減量と資源化を推進する

リデュースの推進

リユースの推進

リサイクルの推進

★適正排出・処分

適正にごみの排出・処分を行う

ごみの適正排出・処分

3. 成果指標の算出方法

成果指標		算出方法
環境の柱1 環境教育		
1	エコスクールの参加者数	1年間のエコスクールの参加者数（事務局、保育園、公募及び関連講座分）
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	1年間の生活情報アプリのダウンロード数
環境の柱2 環境対策		
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
4-1	降下ばいじんの量（市内平均）	市内10箇所ですべて毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/10箇所
4-2	降下ばいじんの量（北部平均）	市内北部地域5箇所（一番畑保育園、名和児童館、名和町吹付、名和東児童館、上野中学校）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
4-3	降下ばいじんの量（南部平均）	市内南部地域5箇所（ソラト太田川、文化センター、養父児童館、横須賀中学校、三ツ池保育園）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
5	環境騒音基準値の適合率	環境騒音測定地点（市内6箇所）×2区分（昼間・夜間）で計12測定値が環境基準に適合している割合
6	自動車交通騒音基準値の適合率	自動車交通騒音測定地点（市内5箇所）×2区分（昼間・夜間）で計10測定値が要請限度を超えない割合
7	市内の川の水がきれいであると感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
8	土留木川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（土留木川 竜ノ脇交差点）
9	大田川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（大田川 大宮橋）

成果指標		算出方法
環境の柱3 環境保全・再生・創造		
10	太陽光発電システムの累計設置件数	中部電力株式会社と売買契約を締結している契約数の累計
11	らんらんバスの年間利用者数	1年間のらんらんバスの利用者数
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
13	地域の清掃活動に参加した人数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計人数
14	地域の清掃活動に参加した延べ団体数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計団体数
15	花や緑が充実していると思う人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
環境の柱4 循環型社会		
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	市内の都市公園面積/東海市の面積×100
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
18	市民一人当たりのごみの総量	【1年間のごみ(家庭系・事業系(可燃物+不燃物))の清掃センターへの総搬入量+分別収集・資源集団回収・ごみ集積場で回収した1年間の資源回収量+市で把握している民間で回収した1年間の資源回収量】/年間日数/人口
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	1年間の家庭ごみ(可燃物+不燃物)の清掃センターへの総搬入量/年間日数/人口
20	事業系ごみの総排出量	1年間の事業系可燃ごみの総重量+事業系不燃ごみの総重量
21	プラスチック製容器包装の不適合混合率	1年間に回収したプラスチック製容器包装の不適合物の混入割合。 プラスチック製容器包装に含まれる不適合物の総重量/プラスチック製容器包装収集量の総重量

4. 成果指標一覧表

	成 果 指 標	基準値(H24)	現状値(H27)	H29	めざそう値(H35) めざす方向性
1	エコスクールの参加者数	971 人	1,094 人	1,371 人	↗
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	-	-	4,455 件	↗
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	45%	50.2%	52.7%	40%
4	降下ばいじんの量(市内平均)	3.9t/km ² ・月	3.5 t/km ² ・月	4.3 t/km ² ・月	3.3 t/km ² ・月
4-2	降下ばいじんの量(北部平均)	2.8t/km ² ・月	2.6 t/km ² ・月	3.0 t/km ² ・月	2.5 t/km ² ・月
4-3	降下ばいじんの量(南部平均)	4.9t/km ² ・月	4.3 t/km ² ・月	5.7 t/km ² ・月	4.0 t/km ² ・月
5	環境騒音基準値の適合率	66.7%	80%	66.7%	↗
6	自動車交通騒音基準値の適合率	80%	90%	100%	↗
7	市内の川の水がきれいであると感じている人の割合	26.4%	30.5%	29.9%	30.9%
8	土留木川の BOD 濃度	16.0mg/ℓ	20.0 mg/ℓ	13.0 mg/ℓ	↘
9	大田川の BOD 濃度	2.6 mg/ℓ	2.0 mg/ℓ	2.5 mg/ℓ	↘
10	太陽光発電システムの累計設置件数	1,742 件	2,933 件	3,379 件	↗
11	らんらんバスの年間利用者数	290,880 人/年	337,261 人/年	437,928 人/年	↗
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	58.3%	51.4%	52.5%	50%
13	地域の清掃活動に参加した人数	18,453 人	14,288 人	13,082 人	↗
14	地域の清掃活動に参加した団体数	59 団体	81 団体	112 団体	↗

		基準値(H24)	現状値(H27)	H29	めざそう値(H35)
15	花や緑が充実していると思う人の割合	72.7%	74.2%	75.1%	78%
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	2.4%	2.8%	2.8%	↗
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	90.1%	88.8%	88.7%	95%
18	市民一人当たりのごみの総量	995g/人・日	950 g/人・日	922 g/人・日	900 g/人・日
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	552 g/人・日	526 g/人・日	510 g/人・日	↘
20	事業系ごみの総排出量	9,753 t	9,821 t	9,548 t	↘
21	プラスチック製容器包装の不適合物混合率	8.0%	8.0%	6.9%	↘

5. 計画推進の検討過程

- 平成29年6月26日 第1回東海市環境基本計画推進委員会
「平成28年度成果指標について」
- 平成29年11月6日 第2回東海市環境基本計画推進委員会
「平成28年度年次報告書について」
- 平成30年3月9日 第3回東海市環境基本計画推進委員会
「平成29年度年次報告書について」
- 平成30年3月9日 第1回東海市エコスクール実行委員会
「平成29年度エコスクール開催実績について」
「平成30年度エコスクール講座案について」

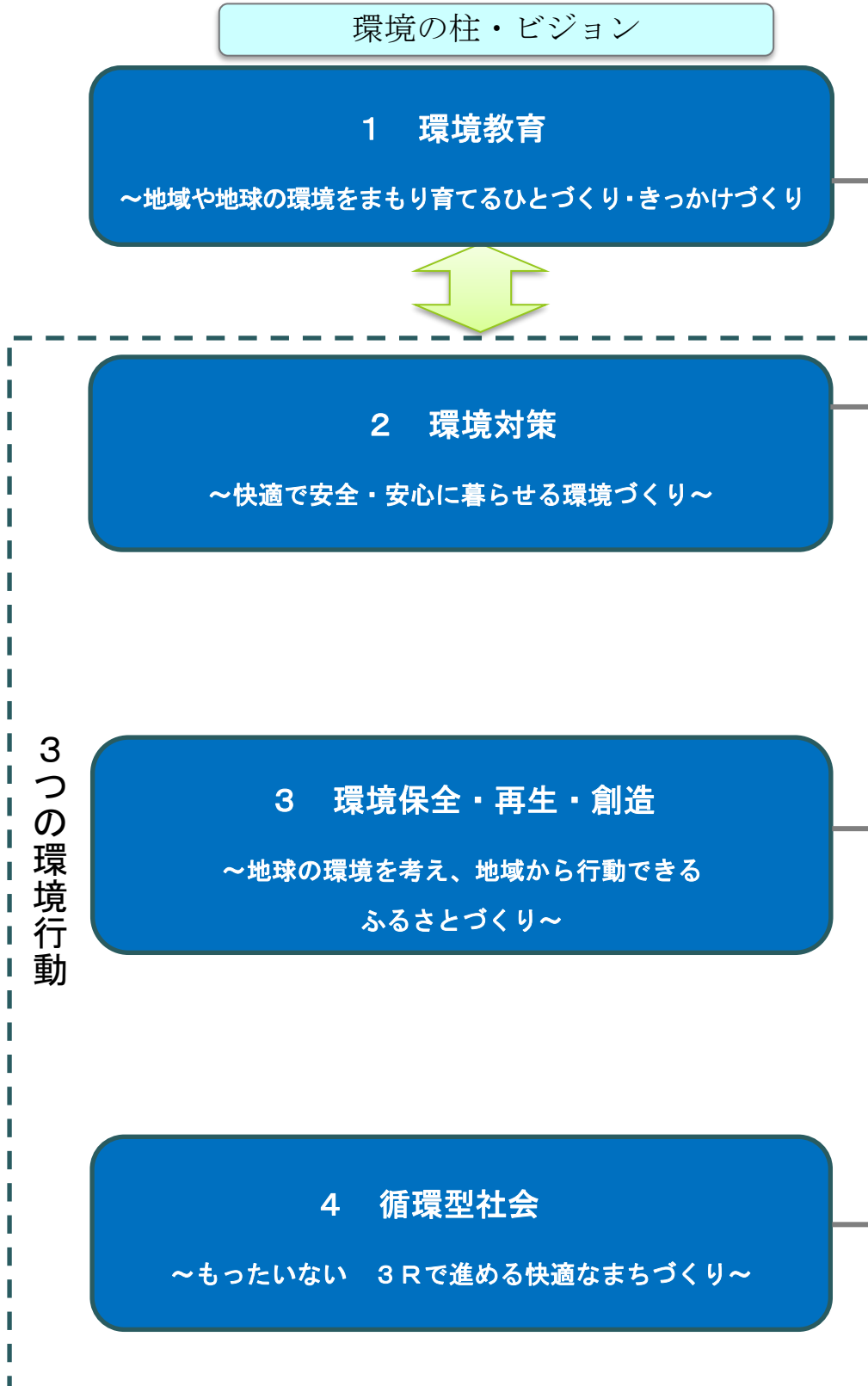
6. 環境基本計画推進委員会委員名簿

役 職	所属部会	氏 名	区 分
委 員 長	社 会 環 境	今 脇 啓 二	事業者を代表する者
副 委 員 長 社会環境部会長	社 会 環 境	山 本 隆 明	事業者を代表する者
副 委 員 長 生活環境部会長	生 活 環 境	倉 橋 和 宏	事業者を代表する者
副 委 員 長 廃棄物・リサイクル 部会長	廃棄物・リサイクル	深 谷 保	事業者を代表する者
委 員	社 会 環 境	寺 島 賀 子	市内に在住する者
〃	〃	鶴 見 秀 人	事業者を代表する者
〃	〃	大久保 敏 治	市内に在住する者
〃	生 活 環 境	吉 鶴 弥 生	NPO を代表する者
〃	〃	南 川 陸 夫	NPO を代表する者
〃	〃	追 分 僚 子	市内に在住する者
〃	〃	武 富 時 満	市内に在住する者
〃	廃棄物・リサイクル	白 羽 圭 子	NPO を代表する者
〃	〃	立 川 泰 子	市内に在住する者
〃	〃	森 岡 良 枝	NPO を代表する者
〃	〃	毛 利 まり子	NPO を代表する者

(4). 計画のビジョン

1. 体系図

「環境教育」と、「環境対策」、「環境保全・再生・創造」、「循環型社会」の3つの環境行動が連携し、環境ビジョン「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の実現を目指します。



環境分野・基本的な施策

行動計画

★環境教育

環境教育を推進する

環境教育・学習の推進

環境保全活動の担い手づくり

★大気・ばいじん

きれいな空気を守る

大気の調査・監視

公害の防止

★悪臭・騒音

悪臭・騒音の発生を抑える

悪臭対策

騒音対策

★水質

生活排水を適切に管理する

水質の調査・監視

水質環境の改善

★地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

省エネルギーの推進

再生可能エネルギーの活用

低炭素型まちづくり

★環境美化

まちの環境美化を推進する

美化活動の推進

★緑・水・生き物

人と自然が共生できるように環境保全活動を推進する

緑地の保全・持続可能な利用

水環境・水循環の保全・持続可能な利用

生物多様性の保全・持続可能な利用

★3R活動

ごみ減量と資源化を推進する

リデュースの推進

リユースの推進

リサイクルの推進

★適正排出・処分

適正にごみの排出・処分を行う

ごみの適正排出・処分